

佐世保工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	国際研修Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0077		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	実習		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	電子制御工学科		対象学年		4		
開設期	集中		週時間数				
教科書/教材							
担当教員	猪原 武士						
到達目標							
1. 異国での体験活動を楽しむことができる。 2. 共通語として英語を使える基礎的な言語能力を身につける。 3. 訪問先の人々と学習や生活を共にする交流体験を通して、異文化を理解し共感できる。 4. 海外の訪問先で学んだ経験や知識等の成果を総括できる。 5. 海外で学んだ体験を自らの言葉で伝えることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
異国での体験活動を楽しむことができる。		十分にできる。	ある程度できる。		できない。		
共通語として英語を使える基礎的な言語能力を身につける。		十分にできる。	ある程度できる。		できない。		
訪問先の人々と学習や生活を共にする交流体験を通して、異文化を理解し共感できる。		十分にできる。	ある程度できる。		できない。		
海外の訪問先で学んだ経験や知識等の成果を総括できる。		十分にできる。	ある程度できる。		できない。		
海外で学んだ体験を自らの言葉で伝えることができる。		十分にできる。	ある程度できる。		できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	海外の学校や企業等の組織において、語学力や異文化理解など国際的に活動する基礎能力を、実践活動を通して楽しみながら学習する。						
授業の進め方・方法	海外の学校や企業等の組織において、語学力や異文化理解など国際的に活動する基礎能力を、実践活動を通して楽しみながら学習する。						
注意点	履修に関する注意：同一学年においては国際研修Ⅰまたは国際研修Ⅱいずれかのみ認定可能とする。 評価方法： 評価は、学生から提出される「EDGE活動報告書」（50点；評価項目①～⑤）および「動画資料等を用いた報告会」（50点；（評価項目⑥、⑦））を基に、下記に示す7項目を5段階の評価基準により評価し、60点以上を認定とする。 評価項目は次の通りである。 ①活動の背景・関連分野を調査し、活動の目的・意義・到達目標をよく理解しているか。 ②活動記録（日誌等）を確実に残し、自主的にまた長期間継続的に活動できたか。 ③指導・支援を行う教員や機関との連携（活動の経過および成果についての協議・討論等）を十分に行なったか。 ④活動目標に対して十分な達成が得られ、論理的に記述した報告書が作成されたか。 ⑤活動成果の質・量は充実しているか。 ⑥発表資料はよく整理され、充実しているか。活動内容が分り易く説明されているか。 ⑦適切な質疑応答がなされているか。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	研修計画の策定		収集した情報を元に研修計画を立てることができる		
		2週	研修の実施		研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。		
		3週	研修の実施		研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。		
		4週	研修の実施		研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。		
		5週	研修の実施		研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。		
		6週	研修の実施		研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。		
		7週	研修の実施		研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。		
		8週	研修の実施		研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。		
	2ndQ	9週	研修の実施		研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。		
		10週	研修の実施		研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。		
		11週	研修の実施		研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。		
		12週	研修の実施		研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。		

		13週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		14週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		15週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		16週		
後期	3rdQ	1週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		2週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		3週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		4週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		5週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		6週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		7週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		8週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
	4thQ	9週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		10週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		11週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		12週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		13週	研修の実施	研修を通してコミュニケーション能力を向上させ異文化を理解する。
		14週	報告書の作成	研修の過程と成果を報告書に総括することができる。
		15週	報告会の実施	研修の過程と成果を効果的に説明することができる。
		16週		
評価割合				
		報告書	報告会におけるプレゼンテーションと資料	合計
総合評価割合		50	50	100
基礎・専門的能力		25	25	50
分野横断的能力		25	25	50